

<学力調査の結果から>

○成果や良い面 △課題面 ☆今後の手立て

○国語の領域の中で「書くこと」について全ての学年で全国平均を上回った。

○国語B（活用）に於いても、自分の考えを文章にまとめるなど「書く力」が伸びている。

△算数では、「計算」領域に於いて全国を上回っているが、「図形」や「数量関係」でつまづいている児童が見受けられる。

☆算数や理科の授業で、操作活動や探究活動など体験的な学習を重視したり、実生活での事象と関連を図るような学習を進めていく。

☆思考力・判断力を高めるため、根拠を明確にして自分の考えを書いたり、話し合ったりというような活動を積極的に取り入れ、言語活動の更なる充実を図る。

<質問紙調査の結果から>

○ものごとをあきらめずに最後までやり遂げる児童が多い。

○将来の夢や目標を持っている児童が多い。

○家できちんと宿題をしている。

○ほとんどの児童が、いじめは良くないことだと思っている。

○人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。

○家で学校での出来事など話をよくする割合は高いが、そうでない児童も20%を超えている。

△失敗を恐れる傾向があり、難しい事に挑戦する意欲がやや乏しい。

△自信を持って「自分にはよいところがある」と思っている児童が少ない。

△宿題はするが、自分で計画を立てて学習したり、予習・復習をしている児童が少ない。

△新聞を読んでいる児童、読書が好きな児童が少ない。

☆自主学习を推進するなど、自発的に学習する習慣を身につけさせる。

☆学校生活の様々な場面で、達成感・成就感を味わわせ、自尊感情を高める。

<尼崎市教育委員会の分析>

○宿題や予習・復習など、家庭学習（学校の授業以外の学習）と、学力との間に相関関係がある。少なくとも1時間以上の家庭学習を継続するとともに、自分で計画を立てて学習に取り組むことが大切である。

○「携帯電話・スマートフォンの使用時間」や「テレビ・DVDの視聴時間」と、学力の間には、一定の関係が見られ、長時間の使用・視聴は学力に大きく悪影響を与えている。

☆基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭学習の計画を立てて、主体的に取り組むことができるよう学校と家庭との連携を深めることが重要である。

☆家庭におけるテレビやゲーム、携帯電話・スマートフォンなどの使用時間や利用の仕方などに関するルールを決めたり、読書活動の充実などの生活習慣の見直しが重要である。